

【全体概要】

- 「シャインマスカット」の作付推進により、同時期(8月下旬以降)に収穫できる赤・黒色の優良品種が求められている。
- そこで、優良品種として「クイーンニーナ」、「グロースクローネ」を推進しているが、着粒不良、着色不良が発生している。
- 栽培技術を確立し、8月下旬以降にブドウの3色セット販売を可能にすることにより生産振興を図る。

新品種・新技術等の概要

○赤色大粒品種

「クイーンニーナ」:農研機構の育成品種。果皮色が赤く食味に優れた大粒品種。「巨峰」や「ピオーネ」よりやや遅い時期に収穫できる。本県で58aを栽培(R3)。



○黒色大粒品種

「グロースクローネ」:農研機構の開発品種。高温下でも着色性に優れる極大粒品種。糖度は「巨峰」並み、酸含量は「巨峰」よりやや低い。本県で12aを栽培(R3)。



○直光着色品種である「クイーンニーナ」は、直射日光により日焼け果が発生しやすく、透明袋+傘掛けにより、日焼け果の発生軽減と着色向上ができる。



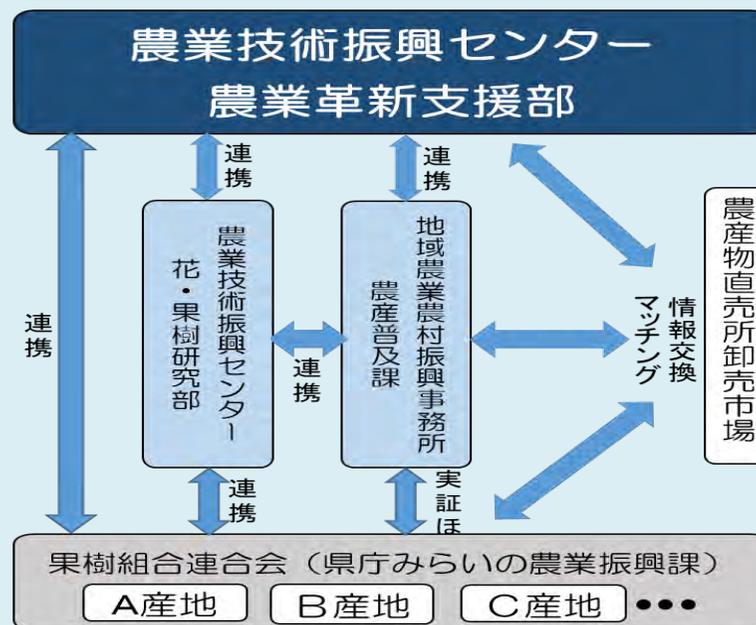
○また、光反射シートを棚下に敷設すると、果房周辺の日射量が増加し、着色向上ができる。(クイーンニーナ)

○環状剥皮と摘心、ジベレリン処理にホルクロルフェニロン液剤を加用することで、花ぶるいが抑制でき着粒が安定する。(グロースクローネ)

主な取組内容

- 「クイーンニーナ」の着粒不足、着色不良の改善技術について現地実証ほを4カ所設置した。
- 「グロースクローネ」の品種特性を把握し、栽培技術の良否を検討する現地実証を1カ所設置した。
- 実証ほを活用した現地検討会を1回開催し、生産者や関係機関と技術の効果や課題について検討を行った。
- 新品種、新技術のデータを実需者、産地に提供し、意見交換を行い、技術の問題点や改善点について検討した。

実施体制図



課題と今後の対応

- 令和4年度の実証ほの結果では、クイーンニーナにおいて着色促進効果を認めたが、着房過多やベト病の発生、房型が課題となり、グロースクローネでは、花ぶるい抑制効果を認めたが、日焼け果の発生などが課題となった。
- ＜今後の対応＞
- 令和4年度の実証結果から改善項目について新技術を検討し、高品質なブドウ生産に向けた栽培技術を確立し、マニュアルを作成する。
- 選定した優良品種について研修会を開催し、栽培推進を図る。